

平成 27 年 8 月 23 日 倉吉市高城公民館  
県立公文書館県史編さん室 西村 芳将

## 1 本土決戦のリアリティ

### 1.1 戦況の悪化

- S19.06.20 マリアナ沖海戦。空母 3 隻、航空機 400 機喪失
- S19.07.07 サイパン陥落。絶対国防圏の崩壊。本土が B29 の行動半径下に。
- S19.10.23 レイテ沖海戦で聯合艦隊大敗→海上作戦能力の喪失 ※戦艦武蔵
- S20.03.10 東京大空襲 S20.04.01 米軍の沖縄上陸

### 1.2 本土決戦に至る戦況

- S19.07.20 「本土沿岸築城実施要綱」九十九里浜、鹿島灘、八戸、九州
- S19.07.24 「捷号作戦」比・千島・本土・台湾 4 方面への連合軍侵攻を想定した迎撃準備。
- S20.01.20 「帝国陸海軍作戦計画大綱」本土及朝鮮ノ作戦準備を初秋までに概成すと決定
- S20.03.16 「国土築城実施要綱」20 年 7 月までに全陣地の骨幹を概成、10 月までに完成
- S20.04.25 「決号作戦準備要綱」、大本営陸軍部『国民抗戦必携』作成
- S20.05.23 150 万人を徴集・招集し本土防衛部隊編成（第 230 師団（総武兵团）根雨）  
→持久戦に持ち込みなるべく有利な条件のもとで講和に結びつけたいという意図

### 1.3 国民義勇隊の組織化

- S20.03.19 「軍事特別措置法」閣議決定  
「国民義勇隊の組織に関する要綱案」 第 1 「目的」の（4）特に活発に出動すること
  - ①防空及防衛食糧増産空襲被害ノ復旧、都市並ニ工場ノ疎開、重要物資ノ運送等ニ関スル工事又ハ作業ニシテ臨時ノ緊急ヲ要スルモノ
  - ②陣地構築兵器弾薬糧秣ノ補給等陸海軍部隊ノ作戦行動ニ対スル補助
  - ③防空水火消防其ノ他ノ警防活動ノ補助

### 1.4 鳥取地区司令部の設置

軍事と行政の一体化を計るための組織として地区司令部を設置（鳥取一中内）【資料 1】

## 2 ち号演習～本土決戦のための陣地構築

### 2.1 「ち号演習」（『鳥取県史』近代政治篇 p634 【資料 2】） → 【資料 3】 に依拠

- ・中国山脈の山腹を中心に、コの字型の狙撃陣地・一人用の蛸壺・物資弾薬貯蔵庫など合計 560 の横穴や壕が掘りかえされた。
- ・10 月完成を目標に米子・倉吉・鳥取の三地区で延べ 5,60 万人を動員
- ・達成率は鳥取は 1/3、米子は 1/5、倉吉は 8 割
- ・賃金は男 2 円、女 1.5 円（倉吉地区だけで計 20 万円）
- ・落盤事故で死亡 4 人、重軽傷 16 人

### 2.2 疑問点

- ① いつから開始されたか？誰の命令で、どういう組織で動員されたか？
- ② どこで行われたか？実際の作業はどのようにして行われたか？
- ③ 賃金は誰からどのように支払われたか？
- ④ なぜ「ち号演習」というのか？
- ⑤ 鳥取県以外でも行われたか？

## 2.3 同時代の史料を探す

- ・宇野村役場「チ号演習出面簿」の発見  
動員数（請求書の記載より）  
5月5～14日（打吹山260人）、6月10～30日（宇野村909人）、  
7月1～25日（宇野・西郷村550人）、8月10,11日（橋津村90人）  
戦後、資材の無償払下げと壕穴の取り壊しの命令（10/19）
- ・尚徳村役場「ち号義勇演習出動表」（『米子市史』近代で紹介）  
5月28日～8月上旬までのべ男1431人女1763人。  
隊長30名・隊員男262名・女288名。幡郷村越敷山に出動。

## 2.4 外江村役場「勤労義勇隊チ号演習出動人名簿」

- ・政府の国民義勇隊創設の報を受けて、これに賛意をしめす請願【資料4】
- ・勤労義勇隊動員要綱 動員期間、場所、員数、方法、作業、宿舎、給与を決定【資料5】
- ・県内3地区のうち東部を2区、西部を3区に区分【資料6】
- ・西伯地区内の市町村長に対し、部落ごとの中隊長の継続出動と人選を指示【資料7】
- ・チ号演習経費請求様式の通知、「出面簿」との照合【資料8】
- ・5月分の請求書。延べ1010人1793.50円【資料9】
- ・請求書の根拠となる出動人員表。「△は半島人」の記載あり【資料10】

## 2.5 市町村誌・部落誌・手記・他県史

- ・市町村誌の記述に基づく作業地分布  
東地区 ①稲葉地区（山湯山・百谷・久松山） ②東郷地区（横枕・高路）  
中地区 馬ノ山・打吹山・小田山・米里三ノ崎  
西地区 ①成実村 ②越敷山 ③宇田川山地
- ・鳥取市東郷地区の記録  
『横枕記』【資料11】  
鳥取聯隊の事前調査、宿舎提供、工兵参加、参集範囲、作業内容、事故  
『東郷郷土誌』【資料12】  
防備が手薄になる日本海側からの侵攻予測
- ・淀江町の記録『子と孫に伝えたいふるさとの終戦秘話』（山根淳、H16）  
鳥取県西部戦災およびチ号演習概略図（弓ヶ浜半島への米軍上陸を想定）
- ・「益田市史」p509  
昭和20年4月から益田市内3箇所に塹壕を築造するために軍隊・地方民・学徒動員生・農兵らがかかりたてられたと記載。 Cf.「海士町史」にも記載あり。

## 3 高城飛行場～本土決戦に備える秘匿飛行場建設

### 3.1 県史の記述

- ・「県民の空しい労働奉仕に頼ったものに、東伯郡高城飛行場がある。郡民十二万人を動員して、田地二十町歩の整地が終り、一番機が着陸したのが八月であった。かくて六月十一日から始められた突貫工事は、無用の広場と化したのであった。」【資料13】  
→S21.08.14 大阪毎日新聞鳥取版【資料14】に依拠

### 3.2 同時代の資料

- ・S21.02.22 付日本海新聞 収穫減の影響→急ぐ耕地化、食糧増産に再起！【資料15】
- ・S22.09.10 軍用地返還に関する件 関係書類は終戦直後売却【資料16】

### 3.3 証言記録

- 『高城史』、「市報くらよし」1995.08.01 【資料 17】
  - ・進捗 5月6日 高城村役場で軍人による飛行場建設命令  
5月9日 建物疎開、高城小学校生徒を動員した麦刈りの開始  
6月11日 建設作業開始 →本格化した段階で「り号演習」へ切り替え
  - ・規模 一日 500人、延べ 12万人動員
  - ・内容 国府河原の石を掘り出す→モッコで運ぶ→地面を固める  
久米が原台地の赤土の運搬
  - ・指揮 航空総軍の将校と数名の軍人
  - ・拠点 本部（大橋旅館→下米積の安田家→日輪兵舎）、軍人宿舎（上福田の民家）  
※日輪兵舎は旧久米青年学校校舎→戦後、久米中学校が一時転用か。
  - ・利用 8月10日ほぼ完成し、空 542部隊中等練習機の到着
  - ・施設 兵舎・炊事場・風呂場（選果場北側）
  - ・誘導路 県道～久米中、久米中から東西道路、西は妻の神集落まで 25機程度格納
  
- 『松陵』久米中学校創立 50周年記念誌【資料 18】 日輪兵舎に朝鮮人が寄宿
  
- 「終戦まぎわの飛行場建設」隅坂幸枝【資料 19】
  - ・軍に宿舎を提供。国防婦人会の応援。戦後すぐに進まなかった復員
  
- 大山村所子から飛行場建設に参加した人の体験談【資料 20】
  - ・参加者の多くは年配者、主婦 40名程度
  - ・西倉吉駅から徒歩で移動。人員報告、作業内容説明、用具配給、作業班編成
  - ・地ならし作業、レール1条、トロッコ3台。汽車賃は無料。

### 3.4 秘匿飛行場の設定

- ・本土決戦に備え、米軍の空襲から逃れるため飛行場それ自体を秘匿するという考えのもとに設定【資料 21】
- ・倉吉飛行場の建設命令は昭和 20年 5月 28日【資料 22】
- ・昭和 20年 4月以後、全国で 38の秘匿飛行場を建設予定【資料 23】
- ・日本海沿岸山陰地域は、大陸からの物資の揚陸拠点として防衛重視されていた【資料 24】
- ・しかし、8月 6日（又は 7日）には米軍の写真偵察機により倉吉（高城）飛行場は上空から発見されていた。【資料 25】

## 4 まとめ

### 4.1 今回の調査で判明したこと

- ・「ち号演習」は、本土決戦段階に米軍の本土上陸に備えた築城作戦への県民動員。国民義勇隊の組織化以前に、大政翼賛会鳥取県支部が率先して「勤労義勇隊」を組織。市町村支部を通じて動員が徹底されたため、大規模に実施。
- ・これに対して、「高城飛行場」は、本土決戦に備えて飛行機・航空資材を秘匿・分散配置するために全国的に適地を選んで建設された秘匿飛行場の一つ。
- ・つまり、打吹山、四王寺山、高城飛行場を含む倉吉市域は、本土決戦の重要拠点だった。

### 4.2 残された課題

- ・「第二次ち号演習」「義号演習」「り号演習」の違い??死亡者、負傷者数の特定。朝鮮人の動員。高城飛行場への動員計画（出面簿）の確認